

## 37. 服装における面の美感について

大分大学芸 釘宮 久美

1. コスチュームデザインにおける good を求めるための理論展開の試論である。美が、現象の内部と外部をつなぐ懸橋であるとするならば、創造する者は、最も鋭敏な批評家であらねばならぬし、美の創造のためには、視覚形象における内在性の洞察がなければならぬ。

2. 現代フランスの代表的作家の作品を対象として、デザインのエレメントの一つ area (面) に焦点をあて、その構造と美感を抽出してみた。

3. form を形成する要素は、shape, line, area, に関係があるが、特に、面の状態、即ち、分割の状態、紋様の配置、色彩配置、材質配置、によって、コスチュームの全体的性格が、支配される。更に、面に内在する感覚的な力は、単純な統一的形態へと要約することによって、その極限に達すると共に、それが、mass (塊) としての面を形成する時、求心的凝結性と、遠心的拡大性を展開し、今日的性格をつくり出す。その構造を明らかにしたい。